

IATSS三十周年によせて

## メコン川

吉村方宏 (財)国際交通安全学会常務理事

本田技研工業(株)元取締役・現特別顧問。一貫して現場での車作りに携わり、直近では世界で新機種の立ち上げを担当。新しいものにチャレンジするのはなんでも好きだが、最近は昔の趣味を掘り起こしオーディオ、写真、料理、釣りなどに再チャレンジ。



「こ」「き」「くる」「くる」「くれ」「こい」ご存知、「来る」の「力行変格活用」で、馬鹿の一つ覚えのように文法のテストの時に唱えたものである。最も苦手な教科が国語と英語だった。ある時国語の先生が突然、「人にも5段活用があるがおまえたちは知っているか?」と言った。全員キョトンとしていると黒板に「人財」「人材」「人在」「人災」「人罪」と書いて、「どうだ、おまえはどの“じんざい”だ」と聞くのである。そして、おまえたちはただいだけの「人在」だと言いつつ放ったのである。盛り上がらない教科の授業に、先生もイライラしていたのであろう。しかし、しっかり勉強して「人財」になれよと、つけ加えることも忘れなかった。その後国語はなんとかあったが、英語だけはどうにもならなかった。海外の新機種の立ち上げなどで、その必要性を痛切に感じたが、後悔先に立たずとはよく言ったものだ。反対に小さい頃から機械モノが好きで、家にあったラジオ、自転車、アイロン、時計、ようやく買ってもらったモーターで動く車のおもちゃ、その他ほとんどの機械は、バラされるとい毒牙にかかって元通りの姿になることができなかった。そんなこんなで、まさしくもの作りのホンダにもぐりこんだ。

この学会が発足した1974年、私は鈴鹿製作所に勤務の、まだ駆け出しだったが、なけなしの給料をはたいて買った初代CIVICを乗り回していた。この頃の車のメカは実にシンプルで、反面何かと世話を焼かなければならない所が多かった。自分でデスビのポイントを磨いたり、進角なども調整するのだが、結果は実地走行で確認する。アクセルを踏み込んで、最も加速感の出る位置を探すのだ。ある時いい気になって飛ばしていて、スピード違反でつかまってしまった。31キロオーバーである。パトカー内でいろいろ聞かれるのだが、会社名を言うのが辛かった。名前を出すと、警官は、「おたくにはお世話になっていますよ」と感謝されたので、勘弁してくれるのかと思いきや、しっかりと油を絞られた。免停1か月罰金2万円は本当に痛かった。その頃すでに、後の交通教育センターが稼働していて、その警官もそこで研修を受けていたのである。

それから30年。日本の車の保有台数は7,300万台を超え、現在売り出されている車名数だけでも乗用車で181、普通トラック、バスを除く商用車で64にもなる。車も、車を取り巻く環境も、大きく変わった。しかし変わらないのは、安全という『志』だろう。私の自動車における人生は、おもちゃの車から始まって、実際の車作りに携わり、自工会の環境委員会副委員長として、リサイクル法の対応にも関わった。そして車をとりまくソフトの仕事で完結する。そのチャンスを与えてくれたすべての人に感謝したい。

過日、フォーラムの仕事でラオスを訪れた時のことだが、まず最初に見たかったのはメコン川であった。その時はあいにくの乾季で、水量はそれほど多くなかったが、それでも水上を横切るボートの大きさから比較して、この大河の様子は容易に想像できた。しばらくボートと眺めていたが、その時思ったのは、源流からこの河が大きく豊かではないということだ。たくさんの支流を迎え入れ、先へ運んで行くことがメコンを大河にするのだ。きっと学会もそうであるに違いない。世の中に先駆けること、存在する意義とその価値を認められること。そして社会の『人財』であり続けられるよう、次の30年を考えてゆきたい。